

●この一般質問の内容は、会議録（反訳文）に基づいて各議員が質問の一部をまとめ、本委員会が最終確認・編集をしたものです。  
●各議員氏名横のQRコードからその議員の一般質問の動画がご覧いただけます。



まえ さと こう しん  
**前里 光信** 議員



## ■空家の有効活用について

**問** 空家の有効活用について沖縄市などは11団体で協定を結んで対応しているが、西原町としてはどのような計画があるか。

**建設部長** 平成28年度の空家調査では、72件の空家を確認している。町へ

## ■冠水被害の抜本的解決を

**問** 小那覇の冠水について抜本的な解決策を伺う。

**建設部長** 今後は抜本的な対策として、沖縄県中部土木事務所維持管理班が作成している浦添西原線、嘉手刈地区冠水対策について、今後県と協議しながら、冠水対策を進めていく。

の相談は隣地の空家から草木の進入などの相談があり、権利者を検索し適正な管理を促しているのが現状である。前回の調査から6年が経過しているため、町内空家の再調査の検討を行い、ある市町村の事例を参考に検討していく。

## ■認知症の対応について

**問** ある大学の先生の見解では、日本には約600万人の認知症患者がいるとのこと、各自治会でも大きな課題と思うが、町は特に対策があるか。

**福祉部長** 認知症になっても安心して暮らせるまちを目指し、各自治会のいいあんべー共生事業で認知症講和や認知症サポーター養成講座を開催し、

認知症への正しい知識を理解を持てるよう取組んでいる。さらに安心して外出できる体制づくりとして道迷いになる可能性のある方の情報を事前に役場へ届け出てもらい、関係機関と情報共有を行う。また、認知症高齢者等見守りを強化する為、行方不明になった際の早期発見に向けて、衣服や持ち物等に貼るQRコード付きの見守りシールの配布を今年9月から行っている。

## ■高齢化の対応について

**問** 元気な高齢者は出来るものなら働き場を求めたいという思いに、町はどのように対応する予定か。

**建設部長** 働く意欲のある高齢者が長く現役で活躍する事は、地域社会の活力維持はもとより高齢者自身が健康

も保護者からも非常にいい取組みだと、評価を受けている。

## ■軽石被害支援策

**問** 軽石被害の現状と県の緊急支援事業について西原町の取組みを伺う。またコシ器については国・県の補助メニューがなく各自治体で対応しているが。

で豊かな暮らしを実現する上で大変重要である。シルバー人材センターの支援、また雇用サポートセンターでの支援のプログラムを実施して、就職支援を実施している。



### その他の質問

- 新型コロナウイルス感染症の対策、特に12歳以下の子どもたちへの対応について
- 世界のニシハランチュ大会について
- 少子化による小・中学校の運営について
- 高齢者にやさしいまちづくりについて
- 台風の被害を受けた農家への支援について

用の2分の1の金額を支援補助として検討をしている。

### その他の質問

- ゴミ処理場整備
- 自治会子どもの居場所支援
- 医療的ケア児支援体制
- 給食フードロス
- 西地区区画整理予算要求



みやざと ひろ ふみ  
**宮里 洋史** 議員



## ■教員の働き方改革

### 問

先生方の学校現場の働き方改革だが、今回コロナの中で休み時間を短縮して下校時間を早めた。保護者からもよかったという意見もあったが、現場の先生も、負担軽減に繋がると思うがその点はどうか。

教育総務課主幹

御指摘のとおりだ

と思う。実はコロナ禍で子供たちの接触を少しでも短くしようということ

で、校長先生や委員会のほうと相談して、例えば45分のうちの25分を後半のほうに持っていったって、子供たちの昼休みを20分にして早く帰る。実は学童のほうにも、そのような連携を図っている。やはり迎える時間が変わるので、そういうことに関して、実は職員から

### 町長

軽石の漂着被害の現状について、与那原・西原町漁業協同組合、沖縄県近海鮪漁業協同組合から支援要請がある。県の軽石被害に係る緊急支援事業については、今後、他市町村の動向を注視しながら検討していく。また、海水コシ器については、国・県の補助メニューがない方に対し、西原町の支援対策として海水コシ器の本体費



置すべきではないか問う。

### 建設部長

小波津川沿線の小波津川北線以下、3路線は、植樹桝、植栽等の計画はないが、小波津川河川敷内へ植樹が可能なかを含め、県と協議をしていきたいと考える。また橋梁が再整備された箇所へ優先して道路照明灯を設置しさらに防犯灯に関してはその都度検討していきたいと考えている。

## ■公的斎場について問う

### 問

高齢化社会と言われた1970年代以降、高齢者人口は年々増加を続け、死亡者もそれに比例して増加していることから今後公営斎場建設の必要性は高く特にコロナ禍の需要も多く機運は既に熟している。どのように考えるか問う。

### 町長

現在火葬について新型コロナウィルスの影響でこれまでの火葬待ちに拍車がかかり待機日数が長期化している状況であり、広域火葬場の重要性を改めて痛感しているところであ

る。今後公的斎場に今後について引き続き近隣市町村と意見交換をしながら、広域市町村拡大や火葬場の建設に有効な補助事業がないかどうか引き続き調査していきたい。



おおたみのる  
大田 實 議員



## ■今後の小波津川の展望について問う

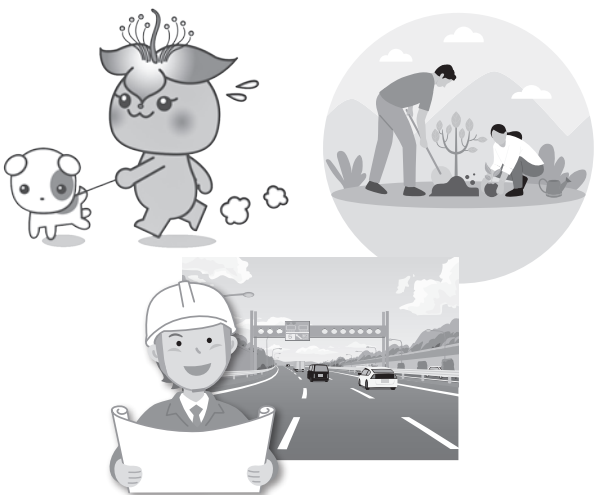
### 問

小波津川の工事は順調に進捗していると思われる。ゆくゆくは街路樹も植樹され町民の目を楽しませる遊歩道になると思うがどのような木を植樹するのか。防犯灯、街灯を設

## ■インフラ工事の概観について

### 問

マスコミは2か月ぐらい前の新聞で、西原町の発展有望を非常に評価している。しかし地域の住民は幸地インター、浦添西原周辺のアクセス道路等がわかりづらいようであり概観の様子を広報にしはら等に掲載すべきでは。



## 一般質問

●この一般質問の内容は、会議録（反訳文）に基づいて各議員が質問の一部をまとめ、本委員会が最終確認・編集をしたものです。  
●各議員氏名横のQRコードからその議員の一般質問の動画をご覧いただけます。